

コンビニ従業員 認知症が疑われる方 への具体的な対応方法を学ぶ

なごや認知症

NEWS

一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会（以下「JFA」という）と連携し、まちのセーフティステーション（SS）活動の一環としてコンビニ従業員向け認知症サポーター養成講座を開催しました。ご家族の事例報告、グループでのディスカッションを通じて、コンビニでの具体的な対応を学んでいただきました。

なごやの認知症の今が分かる

● 発行 ●

名古屋市認知症相談支援センター

✉ n-renkei@nagoya-shakyo.or.jp

☎ 052-919-6622 ☎ 052-913-8553

※ 本センターは、名古屋市社会福祉協議会が名古屋市から委託を受けて実施しています。

コンビニとしてできること

認知症が疑われる方への具体的な対応

平成29年11月、平成30年1月の2回、コンビニ従業員向け認知症サポーター養成講座を開催しました。JFAの皆さんと講座内容について検討を重ねながら企画し、合計82人のコンビニ従業員の皆さんに受講いただきました。

講座では徘徊でお父様を亡くされたご家族に事例報告をお願いし、途中でコンビニに立ち寄られたことが分かったことをお話いただきました。その上で認知症の基礎、接し方のポイントについて学び、グループでのディスカッションで店舗での対応方法について議論を深めていきました。講座のまとめとして、JFAで作成した『認知症高齢者対応シート』を配布、コンビニ店舗での具体的な対応方法を提示いただきました。特に1月は雪の残る寒い日の開催になりましたが、各エリアのいきいき支援センター職員も顔合わせができる機会となりました。地域での身近な店舗、身近な相談機関として連携を深めていきたいです。

地域でできる協力を

おかえり支援サポーター

認知症の方の徘徊による事故を防止し、早期発見する取り組みとして『はいかい高齢者おかえり支援事業』を実施しています。

事業に協力いただける方には『おかえり支援サポーター』としてメールアドレスを登録いただき、市より捜索協力依頼のメールを配信し、情報提供をお願いしています。個人のみでなく、事業所として『協力事業者』に登録いただくことも可能です。平成30年2月末時点で8,253件メールアドレスの登録があります。メールを受けたら周りを見渡し、その方を見つけた際は声をかけ警察へ連絡してください。

（右図）JFAで作成した認知症高齢者対応シート



本人による本人のための相談窓口 「おれんじドアもぐやっこなごや」始まる

平成29年6月17日、名古屋市区で若年性認知症の当事者山田真由美さんを中心に「おれんじドアもぐやっこなごや」が開設されました。本人による相談窓口は全国的にもめずらしい取り組みで、注目を集めています。

山田さんは平成28年12月に仙台市の「おれんじドア」（代表 丹野智文さん）を視察し、「本人には本人にしか話せないことがある」「自分も本人同士の出会いで元気になった。元気な本人が増えてほしい」という思いを持ち、西区認知症専門部会にかけあつてこの取り組みを実現させました。参加した相談者は「自分の症状を話したり、他の人の症状を聞くことで、人それぞれなんだと思った」などと話しました。相談窓口は今後10月まで毎月1回開催予定。問い合わせは西区福祉課まで。



本人の相談にのる山田さん。なごやかな雰囲気、時折笑い声もおこっていた。

すすめ！あなたのまちの推進員（第四回） 認知症サポーターの活躍の場づくり ～認知症カフェをつくらう～

名東区



名東区にある「認知症カフェあかり」。平成28年9月に福祉施設の一画でオープンしたこのカフェは、名古屋市では珍しい、認知症サポーター（※）が主催するカフェです。地域住民である認知症サポーターならではの強みを生かし、敷居が低くてあたたかな雰囲気の特徴です。

「認知症カフェあかり」の立ち上げの背景には、名東区北部いきいき支援センターの杉本推進員の働きかけがありました。かねてから「認知症サポーターの活躍の場が少ない」ことに課題意識を感じていた杉本推進員。ちょうどその頃、福祉施設から「認知症カフェをやる部屋はあるが、やる人がいない」という相談があり、それなら、認知症サポーターが主体となつてカフェができるのではないかと考えました。そこで、認知症サポーターへ声をかけると「やってみたい」という

方がなんと20名も集まり、カフェ開設に向けて動き出すことになりました。打合せを重ねる中で、「認知症の方を介護している家族に寄り添える場にしたい」「ゆとりと話ができる場にしたい」「など、様々な意見が出ました。スタートの中には、介護経験者もあり、特に家族の目線に立ったカフェづくりを心がけました。

現在は、介護家族や地域住民など、毎回約25名が参加し、憩いの場となつています。杉本推進員は「あかりのスタッフさんは、あかりを大切に活動してくださっています。今後、何かわかやう方を応援していきたいです」と目標を新たにしています。



認知症の初期支援を考える ～市認知症セミナー開催～

平成30年3月16日、名古屋市認知症セミナーを開催しました。今回は和ねつとDementia Research所 森岡朋子先生にご足労いただき、講義とグループワークを開催しました。

時間的な制約もあり、認知症ラフサポーター研修『凝縮版』の形で開催しましたが、参加された専門職の皆さんからは、「認知症の初期支援の重要性を知ることができた」「多職種それぞれの視点・関わり方を知ることができた」と前向きな感想をいただきました。今後このような研修を企画し、多職種連携につなげていきたいです。



はい、こちらは認知症 コールセンターです！

『コールセンターを知った きっかけは？』

コールセンターでは、日々電話で相談に応じています。話の流れにもよりますが、相談の終わりに「どちらで当コールセンターのことを知りましたか？」とお訊ねをしています。広報なごや、市の発行物で知ったと答えていただくことが多いです。

また、各関係機関・公所の窓口にあるコールセンターのチラシ・カードを設置していただいています。平成29年度は名古屋市医師会を通じて、各医療機関へ送付をいただきました。かかりつけの先生から情報をもらったという方も何人かいらっしゃいました。

最近の傾向では、インターネットで調べた方も増えてきている印象です。これからの様々な形でPRをしていきます。

1日あたりの
平均相談件数
(30年1月・2月)
5.5件